

## 第5回三次・安芸高田・広島まちづくり交通協議会 議事概要

日時：令和8年4月24日（金） 15：00～16：50

場所：JMS アステールプラザ 2階多目的スタジオ

出席者：委員13名（うち、WEB出席1名）、オブザーバー1名

### 1 開会（会長挨拶）

- ・JR 四国の駅舎が簡素化されていく報道を目にした。かつては木造で立派だった駅舎が、バス停のようになっていくことに対し、地域の方から残念だという声も上がっている。
- ・大学の講義の中で、鉄道駅は交通結節点であると同時に「まちの玄関」であると話している。駅周辺はまちづくりにおいて非常に重要な場所という考えのもと、本協議会では、まちづくりと公共交通のあり方について、皆様と共に検討を進めている。
- ・近年では、駅にコンビニや郵便局が併設されるなど、駅を中心としたまちづくりに積極的に取り組む自治体も増えている。本日も、そうした視点を踏まえながら、活発な議論ができればと考えているため、忌憚のないご意見をいただきたい。

### 2 議事（1）アンケート調査結果

資料1「アンケート調査結果」を庶務より説明後、委員より意見あり。

#### 【加藤委員（学識経験者）】

- ・改善策というよりは現状に対するコメントになるが、資料のP35にある「ダイヤに関するニーズ」のまとめの中で、各エリアから「夜間の時間帯に列車がほしい」というニーズがあるが、広島駅～下深川駅間や広島駅～志和口駅間で22～23時台に最終列車（広島発23:27、下深川着23:51）が走っている。
- ・普段芸備線を利用していない方からの声もあるのではないかと思います。22～23時台に最終列車が走っていることをご存知ないかもしれないので、まずは、そういった方に利用していただけるように周知するような施策も必要ではないかと感じた。

#### 【渡邊会長（学識経験者）】

- ・「夜間の時間帯に列車がほしい」という要望に関して、三次市や安芸高田市では「列車がないので走らせてくれ」、安佐北区と東区は「本数を増やしてほしい」ということだと思うので、同じニーズでも意味合いが変わってくる。
- ・現行のダイヤを見ることでニーズの内容を深掘りできると思うので、精査してもらいたい。
- ・P10にある沿線学校アンケートのとりまとめの中で、三次高校の生徒の通学時の交通手段が他校とは違い、「芸備線」や「その他の公共交通」ではなく、「自家用車」の割合が高くなっているが、実態としてもそう感じるか。

#### 【呑谷委員（三次市）】

- ・周辺地域を含めた実態として、保護者が、中心部に向けて通勤をするのに合わせて子どもを送迎するのを非常に多く見受けるので、自家用車の数字が上がっているものと思われる。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・こういった傾向はいろんなところであるのではないかと思うが、だからといって公共交通がいないとはならない。公共交通があれば親の出発時間に合わせる必要もないので、もっと公共交通をしっかりとすることによってライフスタイルがより豊かになるのかなと感じた。

3 議事（2）JR 芸備線が有する多面的な効果・価値の試算

資料2「JR 芸備線が有する多面的な効果・価値の試算」を庶務より説明後、委員より発言あり。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・芸備線が無くなると自治体はどのぐらい費用を負担しないといけないのかという話で、少なくとも見積もっても3億ぐらいだが、タクシーで支援となると負担はさらに大きくなると理解した。
- ・P4にあるように芸備線の利用者は結構いるので、利用者にとってこの路線が無くなるということは影響が大きいという共通認識のための資料だと私は捉えている。

4 議事（3）JR 芸備線の利便性向上に資する機能強化策（中間報告）

資料3「3市の取組に係る検討状況」を各委員より説明後、他の委員より意見あり。

【加藤委員（学識経験者）】

- ・「駅を中心とした拠点づくり」の取組の中で、ユーザーを想定し、作るプロセスから関わってもらえるのが良いと思う。施設（ハード）等ができた後でニーズとマッチしていなかったというケースではもったいないので、ユーザーの意見を取り入れた施策とすることが望ましいと感じる。
- ・三次駅は、高校生が利用することを想定した自習室として活用するイメージが記載されていたが、勉強したいニーズだけでなく、息抜きがしたい、みんなでワイワイと楽しんで帰りたいというニーズもあると思うので、少し柔軟に対応できれば良いのではないかと思う。
- ・向原エリアでも飲食施設を誘致する際に、向原高校の生徒といった若者向けにどういったものが望まれているかを確認するのも良いと思う。
- ・芸備線というと列車を含めて昭和な感じがしたり、駅舎はあるけど明るくないなど、若者の本音というか、ビビッドなトレンドを取り入れたりと良いのかなと思う。
- ・民間提案制度等を活用した飲食施設などの誘致について具体的な取組があれば教えて欲しい。また、民間が入り、ビジネスとして成り立つための行政支援は用意されているか。
- ・「二次交通の充実強化」の取組の中の高陽・白木エリアのP&R駐車場の整備について、JR可部線沿線でのP&R駐車場整備や高速バスでの事例、アンケート調査で他のエリアも含めて自家用車が普及し、駐車場が不足しているので整備して欲しいという結果もあるので、それを受けて力を入れていくということは大切なことだと思う。
- ・この芸備線のまちづくり交通協議会では3市が連携して取り組むこともポイントだと思うので、高陽・白木エリアのみならず、三次や安芸高田のエリアでもP&Rを推進していくことが（沿線全体で）は大事になると思う。
- ・安芸高田に有料ではあるが駐車場が駅に併設されているが、車の利用者が芸備線を利用しやすくなる取組や仕組みづくりが進むことを期待している。

#### 【呑谷委員（三次市）】

- ・アンケート調査結果の中に、「駅に待ち時間を過ごしやすい場所がない」とか、「駅で待ち時間を有効に使えない」という回答も三次エリアで一定数あり、三次駅では「駅の待合環境整備」が最も高く、そういったニーズがあることが明らかになった。
- ・公営の十日市コミュニティセンターという施設に、高校生が行ったりする話を少しは聞くが、なかなかそういった場所がないので、ゆっくりする場所が欲しいという要望もある。
- ・高校生がどういう過ごし方がしたいかというニーズの把握というのは非常に大事で、今後想定されるスペースの整備においても、そういった声を踏まえて、ただ作るだけでなく本当に活用されるものを作っていく必要があるという意識は持っているので、なるべくそういった声を聞く機会を作っていきたいと考えている。

#### 【渡邊会長（学識経験者）】

- ・高校では、総合的な探求の時間があり、地域課題の解決をテーマとした活動にも取り込まれていると聞くので、みんなで「三次駅の有効活用について探究しよう」といったものができるとうまくいくのではないかと思う。

#### 【黒田委員（安芸高田市）】

- ・民間提案制度の活用については、今後、制度設計をする予定である。安芸高田市の甲立駅と向原駅は市が管理してる施設なので、そこを改修して民間に貸し出すような方式を採りたい。
- ・その際には、向原高校の生徒や地域の方の話をしっかり聞き、地域の方に使ってもらうべきとしていくのが一番理想的であると考えている。
- ・魅力的な拠点となる施設になるように、今年度から高校や地域住民の意見聴取によって制度設計をしていきたい。
- ・以前から向原駅に入っている喫茶店が、推し食グランプリでグランプリをとった「夜叉うどん」の提供を週に2日しているので、それも賑わいの一つとなれば良いと考えている。
- ・現在は、地域の方がコーヒーを飲む憩いの場、サロンのような活用をされているが、「夜叉うどん」を起爆剤にして観光客等にも利用してもらえるような施設にしていきたい。

#### 【田中委員（広島市安佐北区）】

- ・高南LMOつながり隊の志和口駅での活動はこの4月から始まったばかりだが、5月10日にイベント（事務所移転開所セレモニー）を開催する。地域でチラシを作って広島市立大学にも協力してもらい、野菜くずを使ったワークショップ行うと聞いている。
- ・次のイベントについて決まっているものはないが、広島市としては、ひろしまLMOに対して継続的に財政支援を行うなど、行政による伴走支援を引き続き進めていく。

#### 【呑谷委員（三次市）】

- ・利用者の声として数は少ないが、定時定路線で「くるるん」という名前のバスを走らせていたのになぜ変えるのかといった批判的な方がいたが、その方に乗ってみていただいたところ「すごよかった。もうタクシーよりこっちがいい」と言われた。
- ・利用するまでが難しいが、一度利用された方は、車も近くにまで来ることや料金がタクシーに比べて非常に安いということで好評であり、その感触はこちらも感じているので、いかにそ

の1回目の利用を増やすかを、現在、重点的にやっている。

- ・駅周辺の駐車場を利用したP&Rとして、公共施設の駐車場を利用しているが、その施設を使っている方も一定数おり、行事の時に車両の台数が足りないといった問題もあるので、もう少し駅周辺に駐車場の確保ができればという課題を感じている。

#### 【黒田委員（安芸高田市）】

- ・北部地域については高速バスが走っており、その駐車場は現在無料で利用可能である。一方、芸備線の甲立駅と向原駅については、現在、有料の駐車場を運用しており、その駅周辺の駐車場を無料で利用できる実証実験を計画している。
- ・この実証期間中の利用状況を、しっかり確認した上で、今後の検討材料にしていきたい。

#### 【田中委員（広島市安佐北区）】

- ・二次交通について、具体的なものは把握できていない。
- ・志和口駅に駅前広場はなく、旧道で狭い道となっている。駅を出て右側に賃貸の駐車場が数台程度あるが、白木エリアの駅は、全般的に駅前を開発して広くできるような駅はあまりない。
- ・P&Rは、白木地区よりも高陽地区の方が住民の方も関心があると認識している。

#### 【山田委員（広島市）】

- ・P&Rについての声はあるが、現時点で具体的な場所といったところが決まっているわけではない。（民間事業者か自治体の）どちらが整備をするのかについても、具体的にやる場所が決まってから検討していくことになると考えている。

#### 【渡邊会長（学識経験者）】

- ・なかなか実験というのは難しいのかもしれないが、民間の土地を借りることができるのであれば、そこで試験的にP&Rをやってみることもできると思う。できるところから着手していくのが良いと思う。
- ・各エリアで、できそうなことがありそうなので、そういったところから着実に動かしていただくのが良いと思う。
- ・最初は利用者が少なくても、ロコミで広がることもあると思っているので、少し粘り強く、辛抱強く取組を進めていただくのが良いのではないかと思う。
- ・いきなり完成形を作ってスタートするのではなく、仮でもいいので試験的に始めるところから着手して、少しずつ利用者が増えていくというのが大事だと思っているので、そういった取組を今後とも検討してもらいたい。

### 5 議事（3）JR 芸備線の利便性向上に資する機能強化策（中間報告）

資料4「沿線のまちづくりを踏まえた芸備線（三次駅～広島駅）の機能強化策について」を奥井委員より説明後、他の委員より意見あり。

#### 【山田委員（広島市）】

- ・事業者の視点から、他地域における事例なども参考に、一般論的に、機能強化のイメージを示していただき感謝する。今後、今回の協議会で示したアンケート調査やクロスセクター分析の結果も踏まえながら、実際にニーズを精査し具体的に実施していく施策について議論してい

くことになると思う。

- ・その過程では、事業費にかかる議論というのもでてくると思う。我々沿線自治体としても、芸備線のあるべき姿を実現するためにどういった施策に着手していく必要があるか議論を深めていくために、その目的や効果についても対外的に説明を行っていく必要がある。
- ・そのために、打った施策や取組の効果について説明するために必要となる鉄道事業者が有する施設や車両のメンテナンスコストといったデータ、実際に施設等の整備を行うことによって、ダイヤがどのように動くのかといった専門的な知識についても、我々自治体側としても得ていく必要があると考えている。
- ・JR 西日本には、これまで以上に積極的にデータや知見の提供やバックアップをお願いしたい。また合わせて、他地域でも数多くの地域づくりに参画した経験を持っていると思うので、芸備線沿線地域におけるまちづくりの議論についても、積極的に参加していただければと思う。

#### 【戸政委員（広島市）】

- ・JR 西日本から説明のあった鉄道の機能強化策やダイヤ案、各市から説明のあった取組が、これまで協議会の中で議論が進められてきた今後の地域のまちづくりを踏まえたものとなっていると感じる。これらが実現すれば、沿線地域の日常的な利便性が大きく向上することが期待できるだけでなく、3市が連携したまちづくりをさらに前に進める際の基盤となると感じた。
- ・こういった取組を進めていく上では、お金もかかるので、芸備線をいかに活用していくのかという観点の取組も必要になる。観光に関して、広島市内のハード整備が進み、イベントが重なった週末には、県外からかなり多くの方が広島市に来ていることに加えて、来年には八丁堀地区に「カミハチクロス」という新しい再開発ビルが竣工する予定で、その中には、富裕層向けの高級ホテルの入居も予定されている。一般的に富裕層の旅行者は長期滞在をするケースが多く、その土地でしか体験できない食や景色、建物を求めていると言われてるので、広島市だけでなく広島広域都市圏の各市町にも、広く足を伸ばしてもらうことも十分期待できるのではないかと考えている。
- ・こういった状況を1つのチャンスと捉えて、市民に加えて観光客にも広域に芸備線を利用してもらい、広島市、安芸高田市、三次市へと足を運んでもらえるような観光振興施策を、交通施策とまちづくりを一体として検討をさらに進めていく必要がある。引き続き、広島広域都市圏でもこういった取組としっかり連携したい。

#### 【渡邊会長（学識経験者）】

- ・アンケートの中で「時間がかかる」という意見があったが、先日芸備線に乗った時に、行き違い待ちでしばらく停車している時間があり、停車時間が長いと所要時間が長いと感じるのではないかと考える。時間がかかるという意味を少し考えていくと、列車の走行速度に変わりはないが、駅や入線待ちでの停車が無くなることで速くなったと感じてもらえることも考えられるため、利用者の心理を考えた策もあるのではないかと感じた。

## 6 議事（3）その他

資料5「ローカル鉄道の再構築について」を板橋委員から説明。その後、資料6「今後の流れについて」を庶務から説明、資料への意見なし。

【三島委員（オブザーバー）（広島県）】

- ・芸備線の三次以南の取組について、各沿線地域のまちづくりがどのように進められていくのか非常に大きな関心を持っている。議論を進める中で芸備線にとどまらない地域の公共交通ネットワークをどのように構築していくのか、またその中で芸備線が果たす役割というのはどのようなものがあるのかについて、各地の地域公共交通計画の中でまだ十分に明確になっていない部分もあると思うので、その辺りの整理も必要になってくると思う。
- ・例えば、通院や通学、買い物などの日常利用の現状を確認した上で、芸備線や既存のバスも含めた地域の公共交通の体系をどう考えていくのか。特に鉄道と路線バスが重複して運行している区間は、どのように役割分担していくのか議論や検討も必要だと思う。
- ・観光の話もあったが、インバウンドを呼び込む必要があるという共通認識の中で、呼び込むためにはそれぞれの地域でどのような観光政策、観光振興の取組をやっていく必要があるか、丁寧な議論がいると思う。県でも宿泊税を活用しているような支援も始まってきているので、交通だけでなく幅広く議論していく必要があると考えている。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・拠点や二次交通については、各市の地域公共交通計画見直しのタイミングで書いていくことになると思われる。また、計画を作る上では、広島県が交通に限らず様々なデータのデータベースを作っているのので、そういったデータを活用しながら、動きの見える化をしながら推進できればと考えている。

7 閉会